
こんなのが私の執事ですか！！

瑞和彰人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

こんなのが私の執事ですか！！

【Nコード】

N9536P

【作者名】

瑞和彰人

【あらすじ】

十字王立高校ここお嬢様、王子様たちの通う学校そしてそんなかれらを守りお世話をする執事、メイド育成学校まあそれ以外は普通の学校なんだけどね。そんな学校で殺し合い普通の危険区域から来た藤井彰人と完璧超人のお嬢様宇佐美姫とその面白い仲間たちの物語がいま開幕

序章

いつもの一日が始まる。朝起きて朝食を食べるために外に行く。多分ほとんどの人は外食もしくわ、狩りなどを思い浮かべるだろう。ただしどちらも当てはまらない。

俺は今から奪いに行く、そうよくファンタジー小説や、RPGやらに出てくる盗賊みたいに殺したり、ボコボコにしたりして奪い取るという意味である。

まっこれが俺、藤井彰人にとっての日常なんだけどね。

「ああつまんね〜」

いつもどうりの日常、何の変化もないこの腐った町で過ごす毎日。だけど今日は少しだけ違ったこちら側じゃない人が来ていた。

なんでこちら側の人ってわかったかというところ、まあ単純に服がやぶれていたり、しみついていなくて綺麗だったからだ。

「おもしろそうだ」

彰人はその40代ぐらいの男の近くにいて。

「そこのおまえあるもの全部おいて消えろ」

その男おどろきもせず

「全部ということわ命もか？」

「あああん、おまえ聞いてなかったのか全部だ全部」

男は何かを腰から抜こうとした、ナイフか拳銃かまあどっちでもいいけど・・・

「いいの俺は強いぞ、それに拳銃も持っている」

「どうやら後者だったらしい。」

「いいからこいよ」

男は躊躇なく引き金を引いた、だが彰人は避けた、だが2発め3発目と来る、だがどちらともよけた、だがかなりの距離があいてしまった。

「弾丸が見えているのか！」

彰人は無視してこちらに走ってくる、男は銃の乱射を始めた、その乱射は拳銃ながらもマシンガン並みに早かった、それにカートリッジを変える瞬間がみえない。

だが彰人は左右に人間とは思えない早さで動き回り徐々に距離を縮めた。

「動局的に当たらないとも思っているのか？」

男の銃を撃つ速度があがった、だが彰人の動くスピードも上がった。「すごいな、だがこれでは距離を縮められないだろう」

たしかに彰人はよけるだけでせいっぱいになっている、だが彰人は余裕の表情で

「いいだろう虫けらから人としてみてやるよ、だからすこしだけ本気を見せてやる」

次の瞬間彰人はこれまであいていた距離を一瞬で

縮めた。

「なに！」

男は驚きの声とともにこしにあったナイフをすばやく抜いて突き刺してきた。

ないだナイフもあつたのか、別にきずこうと思えばきずけたが完全に手を抜いていた。

だが彰人は上に跳躍してよけた、だがすかさず男も跳躍した彰人に銃口をあわせたが、うたせるひまもなく彰人のかかと落としが炸裂する。

とっさにかまえたうでが2本とも折れた。

「があああ」

悲鳴をいいきるひまもなく地面についた彰人が手刀を男の右目におみまいする。

「ああああああああああああ」

つぶされた右目をおさえながら地面で這いつくばる男その声をききつけた仲間らしき人たちがあつまる。

「頭ああああ！」

男が銃うつたときに走ってくる気配がしたがこいつらか。

「こいつ！」

男たちが銃を彰人に向ける、だが彰人にとわらった。

ああまだ楽しめるのかこの男にかかわって正解だった。

「まて」

その以外な言葉をはなつたのは彰人が右目を潰した男だった。

「くくく・生活やいろいろ保障してやる、おまえ気に入った俺とこないか」

男が手を差し伸べてきた。

「・・・」

あちら側に連れて行ってくれるということか・おもしろそうだ。

彰人は男の手をにぎったこのてを握ったことよって彰人の人生が大きく変わったことすでに実感していた

序章（後書き）

さあこれからさうとほじまじますよ~~~~

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9536p/>

こんなのが私の執事ですか！！

2011年1月9日01時25分発行